

三十二回蒼天句会 今月の一句

令和七年六月十二日 兼題…風薫る、又は自由

紫陽花やパレットに溶く縹色

公子

花菖蒲江戸紫の立ち姿

婦紗子

異常なし病窓越しの五月富士

賢一

薫風や声振り絞り応援歌

繁一

国引きの神話の浜や風薫る

孝志

朋逝きし遠き故郷新樹光

洋一

また一つ木の名おぼえし麦の秋

信江

家並みに万緑迫る木曽路かな

静江

慎ましく山紫陽花や雨の島

鎮夫

睡蓮の合ひ間合ひ間に亀の浮く

国祥

峡谷のトロッコ抜ける風五月

隆彦

派手かしら我が身に問ふて衣更ふ

重子

薫風やいつか出て来る捜しもの

朱美

薫風やお散歩カーットの幼児達

紹子

地下道を抜けて若葉よ箏の会

久恵